

3月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2012. 3. No. 48

食育

～食べるために働く～



自分の畑をもらって耕していく



芽が出た！



堆肥も自分たちで準備(子ども手作りの鋤)

皆さんこんにちは。カンボジアでは雨季から乾季に変わり、その乾季の中でも最も暑い4月に近づいています。日差しは日毎に肌を差すように暑くなります。昼食の時間も補習授業の時間も部屋の中は暑く、汗を流しながら、手で顔を仰ぎながらの毎日です。

さて、今回のDream通信では、新しく始めたグループ分け農作業、また子どもたちの通う病院とカンボジアでの一般的な病院について、それから毎月恒例の身体測定の結果についてお伝えします。

農業の醍醐味を学ぶ

今まで園での農作業というと、週に4日1・2時間で、鶏小屋清掃や薪割り、農園の手入れのお手伝い、という決まった項目で農作業の日を設けていました。しかし、もっと現実的に、1から子どもたちが畑を作り、自分で働いて物を作り、食べるまでの流れを教え、働くとは根気のいること、また頑張った結果大きな喜びが待っていることを教えようと始めた企画について、ご紹介します。

この企画のために、まず子どもたちと一緒に園裏の農園の草刈を行い、その後 SAJ Farm 職員の協力で、固い土を耕運機で耕してもらいました。そこに10区画の枠組みを作り、10チームの子どもたちがそれぞれの持ち場で自ら計画を立て、畝を作り、肥料を施し、種を植え、収穫、調理まで全て行うというのが、今回の企画です。

最近の園の中心は、中学2・3年生、15・6歳の子どもたちです。園では毎日勉強をしていますが、時には集中できなったり、ケンカしたり、学校であまり良くない友達と知り合ったりと、思春期の子ども特有の問題が出てきました。そこで、子どもたちが集中して働くことを学び、そして仕事を楽しむことを学んでもらおうと、今回の企画を始めました。自分たちのチームで採れた野菜はそのチームの子どもたちだけが食べられるというルールを決めたところ、子どもたちは驚くほど夢中になって自分の畑を良いものにしようと奮闘しています。学校から帰ったら、また園の補習授業が終わったら、一目散に裏農園に行きます。

まだ始めたばかりですが、うまいければ後は2ha全ての土地に広げて、農業の醍醐味を大いに学ばせたいと思います。



園のあるクラコー県の病院(診療所)

カンボジアの病院事情

孤児院のある場所は、ポーサット州クラコー県ポーパット村というカンボジアの田舎にあります。そんな田舎で、子どもが大きな病気になったら…、これは園で一番困っている問題です。

園では、子どもたちが遊んでいて怪我をする、風邪を引いて熱を出すなど、日常茶飯事です。園にある寄附で頂いた薬で対処できればいいのですが、それでも回復しない場合は病院に連れて行かなければなりません。村の医者ほとんどの場合、自宅で開業しています。あるところは木で作られた簡素な家の中に診察台のベッドが1台あり、古びたカーテンがかけられている、という状況です。こんな場所で治療ができるのか？とと思ってしまいますが、現地の人にとってはこれが普通なのです。しかし、それでも病状が回復しない時は園からバイクで30分のポーサットの州都に行きます。しかし州都でも、満足な設備は全く整っていません。そこで最終手段となるのがプノンペンです。車で3時間半かけてプノンペンに行き、外国が援助している設備の整った病院に行きます。

写真のような病院が田舎では当たり前の中、子どもたちはそこで親をなくし、将来自分が大切な人を助けたいと、医者になることを夢見る子どもが数多くいます。カンボジアのこの現状を変えるような子どもが、将来園を巣立っていくのが職員の夢でもあります。



プノンペンの日本の援助でできた結核病院

誰が一番大きい？

園では毎月子どもたち全員の身体測定を実施しています。毎月の結果を見ていると、子どもたちの成長のスピードに驚きます。ご飯を食べる量も、多い子どもは1回に3皿平らげることがあります。身長・体重だけでなく、声変わりも始まり、数ヶ月前のサンダルが小さくなってしまったりと、日一日と大きく成長しています。

男女で一番大きな子と一番小さな子をご紹介します。

- 男子1位 クオイ・マッカラー(17) : 170cm
 - 男子1位 カエウ・ナーキム(17) : 170cm
 - 男子最小 リアップ・ポンロー(8) : 120cm
 - 女子1位 ノン・ソッティ(16) : 158cm
 - 女子2位 メーン・スレイキアン(14) : 157cm
 - 女子最小 リアップ・スレイモイ(5) : 106cm
- () 内は年齢



1年間で10cm以上も伸びました！

年々大きくなっている子どもたちは、園の大きな柱となり、よく職員を手伝い、小さい子の世話もしています。逆に何か悪いことをした時にはきつく叱り、他の子どもたちにとってのお兄さん、お姉さんであることを教え、自覚させます。小さい子どもたちの良い手本になるよう、そして園という大きな家族を支える存在となるように、身体だけでなく心も大きく成長して欲しいと思います。



体重も増えて、どんどん成長します